

<センター通信 8月号>

～医療は「おまかせします」ではダメですか？～

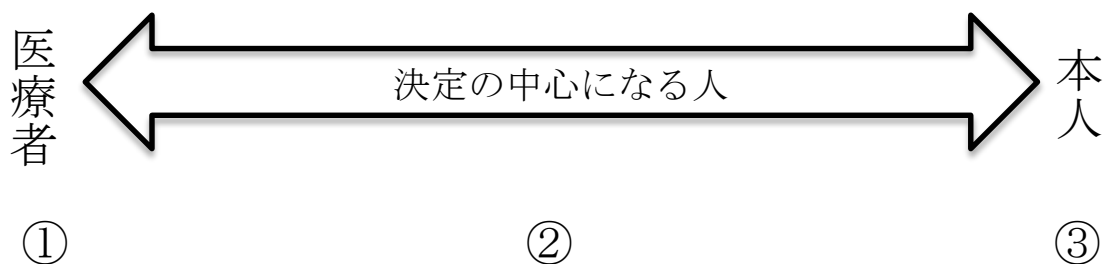
中津川市地域総合医療センター 木村卓二

みなさんは医療機関を受診したときに、昔は「おまかせします」で終わっていたものが、「どうしますか？」と逆に医療者からきかれることはありませんか？どうしますかっていわれても・・・という経験をしたこともあるのではないのでしょうか。私も、そんな思いをさせていることが多々あるのではと反省します。それだけ医療に対する主体性が重要になってきています。

■ 最近は話し合いながら決めることが多くなっています。

大きく分けると医療における意思決定には3つ方法があると言われます。

- ① 父権主義
- ② 協同的意思決定
- ③ 情報をもとに決定



極端に図にすると上のようになります。

- ① はいわゆる「おまかせします」で、主に医療者が決定します。
- ② は医療者が情報を提供し、本人と話し合い、意思決定する方法です。
- ③ は医療者は情報を提供しますが、意思決定は本人で行う方法です。

どれがいいということでもありません。医療者との関係性もありますし、状況にもよります。最近の流れでは②、③が多いと聞いていますが、医療をうける側の主体性が必要になります。

■ 医療者と話合っっていても・・・

そうはいっても、何を聞けばいいか？何をもとに決めればいいか？分からないことも多いと思います。日本では「NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML」により 1998 年に提案された「新・医者にかかる 10 箇条」というものがあります。医師会などでも紹介されており、ここでもあらためて御紹介します。

- ・ 伝えたいことはメモして準備
- ・ 対話の始まりはあいさつから
- ・ より良い関係づくりはあなたにも責任が
- ・ 自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報
- ・ これからの見通しを聞きましょう
- ・ その後の変化も伝える努力を
- ・ 大事なことはメモをとって確認
- ・ 納得できないことは何度でも質問を
- ・ 医療にも不確実なことや限界がある
- ・ 治療方法を決めるのはあなたです

医療者と医療を受ける側の関係性も癒しにつながるといわれます。一人一人、大切にしていることが違うと思いますし、医療は不確実なものですから、話し合っただけで決めることが大切なのかなと思っています。

■あとでもう一度、調べたくなって・・・

また、その場ではわかったつもり、もしくは疑問に思っても聞けず、あとになって、インターネットなどで調べてみることもあると思います。しかし、ご存知の通りすべての情報が正しいわけでもありません。そのために「ヘルスリテラシー」という考え方があります。

“リテラシー”は読み書きする能力です。従って「ヘルスリテラシー」ののだいたいの意味は、健康情報を適切に得て、活用するための知識、意欲、能力です。適切に用いることができれば、健康増進に役立ちます。ウェブサイト「健康を決める力」<http://www.healthliteracy.jp> に詳しく書かれています。私自身も参考になりました。

■最期に・・・

長々と書きましたが、私が一緒に決めていくことが特に必要だと思っているのが「最期のとき」の過ごし方です。心臓マッサージをする？胃ろうをつくる？点滴する？など、決めることがいくつかあります。一緒に話し合いながら考える場を作ることができればと思っています。

参考：

- ・ NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML
- ・ 健康を決める力 <http://www.healthliteracy.jp>
- ・ Sorensen K, et al. Consortium Health Literacy Project European. Health literacy and public health: a systematic review and integration of definitions and models. BMC Public Health. Jan 25;12:80, 2012.